

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

神奈川 大学 玉井義浩 ゼミ E パート

12

部門番号 部門名 社会政策論

テーマ ICT 技術が切り拓く未来

サブテーマ ICT 技術の光と影と、弊害除去のための対策

趣意文

ICT 技術はグーテンベルクの活版印刷の発明にも比肩される技術革新であり、過去四半世紀を通じて社会の有り様を大幅に変えてきた。特に Google などの検索エンジンと SNS は情報へのアクセスの可能性を飛躍的に向上させただけでなく、あらゆる人々が情報の発信源となり得る社会を実現させた点で、民主主義社会や市場経済の究極的理想形を ICT が実現するのではないかという期待が寄せられてきた。特に ICT は新しいビジネスの創造の源として注目されている。

一方で、あらゆる人々が手軽に全世界に情報を発信できる社会は、あらゆる人々が根拠薄弱な情報を発信できる社会でもある。現に、「霊が肩こりの原因となることも」というインターネットのまとめサイトの書き込みの例にみるとおり、ICT には留保つきの情報を十分な根拠のある情報であるかのように錯覚させてしまう作用がある。さらに ICT は著作権の侵害を通じ、既存のコンテンツビジネスの脅威にもなっている他、ICT 技術のおかげでタックスヘイブンへの資金の瞬時移動や組織犯罪者集団の資金洗浄すら容易になっている。また、「てるみクラブ」の倒産事例に見るように、ICT 技術には悪質な業者の事業参入を手助けする弊害もありうる。

本研究では ICT 技術が社会経済に与える光と影の両面を論じ、問題の解決のための法的および経済学的なアプローチを模索する。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央大学 鬼丸 ゼミ 鬼丸 A パート

12

部門番号

部門名 社会政策論

テーマ 減少する労働力人口の対応策

サブテーマ 日本企業における人手不足の改善

趣意文

現在、日本では労働力人口が減少の一途をたどっている。中でも、注目したのは『従業員数が不足していると答えた企業が半数近くを占めている(日本経済新聞の地域経済500調査)』という現状である。そのため、私たちは人手不足を解消するためにはどうすればよいのかについて模索していきたい。

なぜこのような状況になっているのか、またその対応策を女性就労、外国人労働者、AI(人工知能、機械化)、高齢者雇用など様々な視点から考えていきたい。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央 大学 鬼丸朋子 ゼミ C パート

12

部門番号

部門名

社会政策論

テーマ 我が国の少子高齢化に対応する社会を築く

サブテーマ 日本の医療・福祉分野の将来に向けて

趣意文

現在の日本では少子高齢化が問題となっており、2060年には1/4が高齢者になるという傾向がある。この問題に対し、内閣府が少子化対策大綱や高齢社会対策大綱の見直しなど対策を行っている。しかし現状あまり結果は出ていない。

また、高齢者の増加も予測されている。そのため今後さらなる医療・福祉分野の市場拡大が見込まれることから、労働力を確保することが急務となる。

そこで私たちは様々な観点から医療・福祉分野の労働力確保の対応策を考えていき、少子高齢化に対応する社会を提案していく。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央大学 鬼丸朋子 ゼミ 鬼丸朋子ゼミ B パート

12

部門番号

部門名

社会政策論

テーマ 現代日本における働き方の多様化を目指して

サブテーマ 取得しやすい育児休業制度の実現

趣意文

近年、日本人の働き方に対する意識が変わりつつある。したがって、働き方もそれに
応じて変えていくべきではないだろうか。

そこで、私たちは育児休業制度に焦点を当てた。平成 25 年度、既婚男性で育児休業を
取得したいと思う人の割合は、ライフネット生命の調査によると、63.6%であるのに対
し、同年の取得率は、厚生労働省の調査によると、2.03%と差が大きく開いている。その
為、私たちは、現行の育児休業制度の問題点や、取得の障害に着目した。

男性の育児休業取得率が低い原因として、上司の理解が得にくい事や、収入が減少す
る事などが挙げられる。また、調べを進める中で、男性だけでなく女性の育児休業につ
いても、キャリア形成の妨げになっていると考えた。

上記の問題を踏まえ、私たちは、現代日本の働き方の多様化を目指すために、育児休
業を取得しやすくする方法を提案する。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央 大学 宮本悟 ゼミ 宮本悟 A パート

12

部門番号

部門名

社会政策論

テーマ

教育格差

サブテーマ

教育格差の現状と解決策

趣意文

子どもの教育機会は、親の所得水準や住んでいる地域などに左右される面がある。本人の努力が及ばない所与の諸条件により、子どもが享受する教育に格差が生まれており、この教育格差は世代を越えて継承され、固定化しやすい傾向にある。私たちは、教育格差をめぐる負の連鎖を止めるべく、下記のような諸項目について研究を深めている。こうした諸項目を中心に討論を進め、さらに考察を深めていきたい。

- －教育格差の現状と要因
- －所得水準や地域による教育格差
- －教育制度の国際比較

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央 大学 御船洋 ゼミ 御船ゼミ A パート

12

部門番号

部門名 社会政策

テーマ 出生率の回復

サブテーマ 誰もが子育てしやすい環境づくり

趣意文

現在、日本の社会では「少子化」という大きな問題が生じている。我々は、少子化となっている現在の社会の様々な要因に着目し、それらの要因をどのように改善していけば出生率の回復につながるのかということの研究のテーマにした。その中で、少子化を改善させていくためには「子育てしやすい環境」が必要不可欠である。そこで、「子育てしやすい環境」とはどのような環境なのかを現在の会社（社会）の制度、保育機関の不足問題、経済的問題などの様々な観点から考察する必要がある。

今回の研究では、「子育てしやすい環境」を基盤にして、3つの問題に焦点を置いている。そして、それらの問題を分析し、考察することで「子育てしやすい環境」とはどのような環境であるのかを示し、最終的には出生率低下の解決策を提言する。取り上げる問題としては、①企業の子育てに関する制度の問題②保育機関の問題（待機児童問題など）③子育てをする際の経済的問題の3つである。

今後の研究における活動計画としては、3つの問題それぞれの現状を分析し、課題を見出し、その課題に対する解決策を考案し、提言することを考えている。そして、将来的に少子化問題を解決するために、日本が国単位や地域単位ですべきことを議論したいと考えている。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

國學院 大学 根岸 ゼミ 根岸 C パート

12

部門番号

部門名

社会政策論

テーマ ブラック企業

サブテーマ 改善されない長時間労働問題

趣意文

2012年頃から、ブラック企業による長時間労働問題は社会的にも大きな話題となり、世間でもこの問題が広く認知されるようになりました。しかし、未だにこの問題が解決されていないのが現状です。

私たちはこの問題解決の障壁になっているものの一例として 36 協定を挙げました。36 協定とは使用者が労働者との間で労使協定を結ぶことで、労働基準法で定めた労働時間を超えた労働を労働者に行わせることができる協定です。この協定は、本来は企業によるサービス残業を防ぐ効果を持っています。しかし、この協定には繁忙期を理由に過労死ラインを超えうる長時間労働を強いらせることが可能になる特別条項があります。この条項を悪用することによって労働者が 80 時間を超える残業をせざるを得ない状態に仕向ける企業が存在しています。

2012年の東京新聞の調査によると、東証一部上場の売上上位 100 社の 36 協定を確認したところ、全体の 7 割の会社が過労死ラインにあたる月 80 時間以上の残業を行わせていたことがわかりました。したがって 36 協定は労働者の保護ではなく、労働者使い潰しかねない協定となっています。

労働者を長時間労働に駆り立てる方法はこれだけではないので、私たちは長時間労働を引き起こしうるシステムを掘り起こし、どこに問題があるのか議論していきたいと考えています。